

C's MAIL

VOL. 75

株主通信《シーズ・メール》2013
第108期 第2四半期 事業のご報告
平成25年4月1日～平成25年9月30日

 **コスモ石油株式会社**



一目でわかる コスモ石油グループの ビジネスアウトライン

石油精製・販売

当社は、千葉・四日市・堺の3つの製油所において石油製品の生産を行っており、産油国から輸送した原油は、各製油所でガソリン、灯油、軽油、重油などに生まれ変わります。販売については、全国のコスモ石油サービスステーションにおいて販売する他に、工場などの需要家にも販売しています。

*2013年7月に閉鎖した坂出製油所は、オイルターミナルへの移行を進めています。

最新の情報については8-11ページに記載しています。



原油開発

40年以上前から中東のアラブ首長国連邦のアブダビ首長国、カタール国において、原油の自主開発・生産に取り組んでいます。2016年度には、新鉱区ヘイル油田での生産開始が予定されており、原油総輸入量に占める自主開発原油の比率を高めていきます。

エネルギーの安定供給を通じ、
社会の多様なニーズに対応することを
社会的使命と捉え、
長期的に「グローバルな垂直型一貫
総合エネルギー企業」をめざします。

Business Outline

ビジネスモデル

コスモ石油グループは、エネルギー供給の一翼を担う企業として、上流分野である原油の開発・生産から、下流分野である精製・販売まで一貫して取り扱う垂直統合型のビジネスモデルを展開しています。また同時に、石油化学事業や再生可能エネルギー事業など事業ポートフォリオの拡充を進めています。



石油化学

当社グループは、新興国で需要が伸びているポリエステル繊維やペットボトルの原料であるパラキシレン、ミックスキシレンの製造を強化しています。韓国のヒュンダイオイルバンク株式会社 (HDO) との合弁会社であるヒュンダイコスモベトロケミカル株式会社 (HCP) では、世界最大級のパラキシレン製造装置が完成し、2013年から生産を開始しました。



再生可能エネルギー事業

2010年に国内シェア第4位のエコ・パワー株式会社をグループ化し、風力発電事業に本格参入しました。風力発電は、将来の電力供給手段の主力のひとつとして期待が高まっています。また、メガソーラー事業への参入に向けて、合弁会社を設立し、商業運転開始に向けた取り組みを進めています。今後も安全で環境にやさしい再生可能エネルギー事業を拡大していきます。

最新の情報については12-14ページに記載しています。



CSR・社会貢献活動

地球と人間と社会の調和と共生を図り、無限に広がる未来に向けての持続的発展をめざすことを経営理念に定め、当社グループ社員やお客様とともに、国内外で社会貢献活動を展開しています。

第108期 (2014年3月期) 第2四半期 連結累計期間 財務・業績のご報告と 通期の見通しについて

代表取締役会長 (左)
木村 彌一

代表取締役社長 (右)
森川 桂造



株主の皆様におかれましては平素よりご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社の第108期、第2四半期連結累計期間(2013年4月1日～2013年9月30日)(以下:当第2四半期)の財務・業績の概要について、ご報告いたします。

第2四半期の国内経済環境について

当第2四半期における国内経済は、輸出環境の改善や政府の経済対策、金融政策の効果などを背景に、緩やかに回復しつつあります。一方、欧州債務問題が引き続き景気の下振れリスクとなっています。このような環境のなか、石油製品の国内需要は、依然として減退の傾向が見られ、低調な状況が続いています。

当社の事業環境については、原油価格は、期初1バレル107ドル台であったドバイ原油が、中東情勢に対する懸念が緩和されたこと等により期末は104ドル台となりました。為替相場については、日本銀行の金融緩和政策等の影響を受けて、期

初の94円台から円安で推移し、期末は97円台となりました。

コスモ石油グループの営業概況

営業概況を事業セグメント別に解説します。石油事業における販売数量は、ガソリンは総合エネルギー株式会社のグループ化により微増となりました。電力用C重油は石炭火力発電所の稼働増により大幅に減少しました。この結果、コスモ石油個別の国内燃料油総販売数量は、前年同期比97.8%となりました。中間留分の輸出については、

●2013年度第2四半期 前年同期比 (単位: 億円)

	2013年度第2四半期	前年同期比
連結売上高	16,535	2,043
連結営業利益	157	344
連結経常利益	184	401
在庫評価の影響	64	236
連結経常利益(在庫評価影響除き)	120	165
四半期純利益	12	803

千葉製油所の再稼働により76万キロリットルの軽油を輸出したことで大幅に増加しました。

また、円安による販売価格の上昇により売上高は増加しましたが、製品市況が低調となったため、石油事業の経常損失は106億円、前年同期比271億円の増益となりました。

石油化学事業は、販売数量の増加及び市況の回復により、経常利益は26億円、前年同期比48億円の増益。石油開発事業は、販売数量の減少などにより経常利益は228億円、前年同期比14億円の減益となりました。

当第2四半期の連結経営成績については、売上高は1兆6,535億円(前年同期比2,043億円増収)、営業利益は157億円(同344億円増益)、経常利益は184億円(同401億円増益)、四半期純利益は12億円(同803億円増益)となりました。当第2四半期末における連結の財政状態については、総資産は1兆6,477億円となり、前期末比958億円減少しています。これは主に販売数量の減少による売掛金の減少及びたな卸資産が減少したことなどによるものです。純資産は前期末比81億円増加し、2,650億円となり、自己資本比率は14.3%となりました。

2014年3月期、通期の見通し

当社グループは、「第5次連結中期経営計画」で掲げた中長期的な成長戦略を実現すべく各施策を着実に実行してまいります。千葉製油所については、2013年7月から常圧蒸留装置が2系列とも稼働を再開しました。今後とも安全の確保を最優先としながら製油所運営に取り組んでまいります。

2014年3月期、通期の予想については、千葉製油所の再稼働により前期比では増益の計画としていますが、上期の石油製品市況の低迷並びに石油開発事業における販売数量の減少などにより、当初公表予想(5月14日発表)を修正しました。原油価格を1バレル104.90ドル、為替は1ドル98.90円を前提として、売上高3兆5,600億円(前期比3,933億円増収)、営業利益520億円(同4億円減益)、経常利益540億円(同56億円増益)、当期純利益140億円(同999億円増益)となる見通しです。

2014年3月末の配当については、2013年5月14日に公表した通り、経営成績及び財務状況を勘案し検討する方針で、現時点では未定とさせていただきます。

株主の皆様には、一層のご理解・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いたします。

●2013年度通期の連結業績予想(2013年11月5日公表)

●通期(2013年4月1日～2014年3月31日) (単位: 億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	35,600	520	540	140

●受入原油価格、為替の前提

2013年度(2013年4月～2014年3月)

原油価格(ドバイ)=104.90ドル/バレル 為替=98.90円/ドル

業績予想の適切な利用に関する説明

業績予想については、2013年11月5日の発表日において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想と異なる場合があります。



要約四半期連結損益計算書

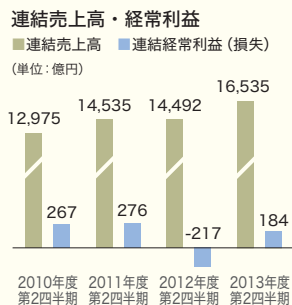
(単位:億円)

科目	当第2四半期 (2013.4.1~2013.9.30)	前第2四半期 (2012.4.1~2012.9.30)
売上高	16,535	14,492
売上原価	15,772	14,089
販売費及び一般管理費	607	590
営業利益	157	-187
営業外収益	106	57
営業外費用	79	87
経常利益	184	-217
特別利益	13	12
特別損失	14	137
税金等調整前四半期純利益	182	-342
法人税等	147	425
少数株主損益調整前四半期純利益	36	-767
少数株主利益	24	24
四半期純利益	12	-791

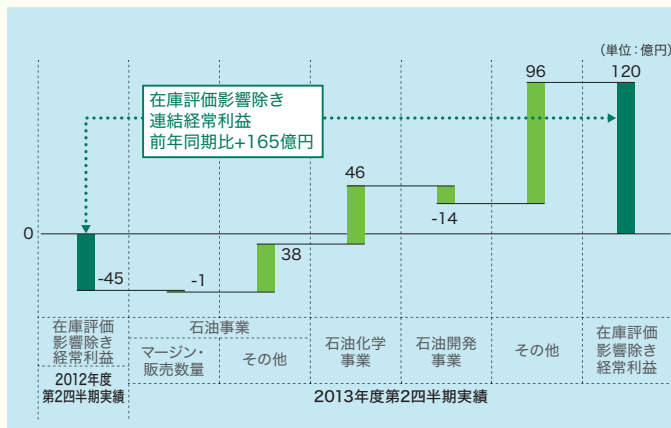
※億円未満を四捨五入しています。

販売価格の上昇等により増収
代替供給コスト解消等により増益

当第2四半期の連結売上高は、1兆6,535億円となり前年同期比2,043億円の増収、連結経常利益は184億円となり、前年同期比401億円の増益となりました。四半期純利益は12億円、前年同期比803億円増益となりました。



連結経常利益(在庫評価影響除き)前年同期比増減分析



在庫評価の影響64億円を除いた連結経常利益は120億円となり、前年同期比165億円の増益となりました。その主な内訳として、石油事業はマージンが悪化したものの千葉製油所の再稼働による収益改善で+37億円、石油化学事業は販売数量の増加と市況の回復等で+46億円、石油開発事業は販売数量の減少等で-14億円、その他で+96億円となりました。

要約四半期連結貸借対照表

(単位:億円)

科目	当第2四半期末 (2013.9.30)	前期末 (2013.3.31)
資産の部		
流動資産	8,666	9,671
固定資産	7,805	7,758
有形固定資産	5,800	5,827
無形固定資産	507	515
投資その他の資産	1,497	1,416
繰延資産	6	5
資産合計	16,477	17,435
負債の部		
流動負債	6,887	8,166
固定負債	6,940	6,699
負債合計	13,827	14,866
純資産の部		
株主資本	2,083	2,071
その他の包括利益累計額	279	234
少数株主持分	289	265
純資産合計	2,650	2,569
負債純資産合計	16,477	17,435

※億円未満を四捨五入しています。

資産の部

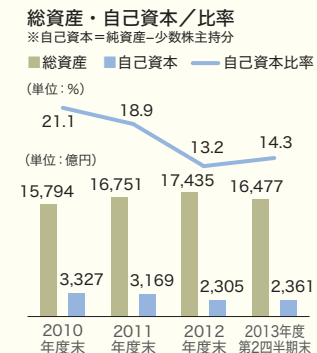
総資産は、販売数量の減少による売掛金の減少及びたな卸資産が減少したこと等で前期末比958億円減少しました。

負債の部

負債は、未払金、買掛金の減少等により、前期末比1,038億円減少しました。

純資産の部

純資産は、2,650億円となり、自己資本比率は14.3%となりました。



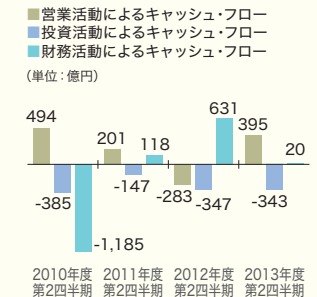
要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科目	当第2四半期 (2013.4.1~2013.9.30)	前第2四半期 (2012.4.1~2012.9.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	395	-283
投資活動によるキャッシュ・フロー	-343	-347
財務活動によるキャッシュ・フロー	20	631
現金及び現金同等物に係る換算差額	40	13
現金及び現金同等物の増減額	113	14
現金及び現金同等物の期首残高	1,297	1,224
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,410	1,239

※億円未満を四捨五入しています。

活動別キャッシュ・フロー





千葉製油所の全面復旧により、 収益力は着実に回復。

東日本大震災によるLPGタンク火災以来、長期にわたる操業停止を余儀なくされた千葉製油所が、2013年7月から本格的な稼働を再開しました。また、コスモ石油グループ全体の供給体制の再構築として坂出製油所を閉鎖し、千葉、四日市、堺の3製油所体制がスタートしました。首都圏、中部地区、関西地区の3大消費地に供給拠点を置き、効率性の高いエネルギー供給を行うことで、グループ全体の収益力の向上を図っていきます。

01

千葉製油所の生産能力は、 震災前と同レベルに復旧

千葉製油所は、2011年3月11日に発生した東日本大震災によるLPGタンク火災と、2012年6月に発生したアスファルト漏えい事故の影響を受け、長期にわたる操業停止を余儀なくされました。

2011年の事故は、LPGタンクが開放検査のため満水状態だったことが原因のひとつであったことを踏まえて、満水状態における耐震設計を自主基準として上乗せしました。また、基礎部



分については液状化対策として地盤改良を実施しました。今回の事故では、タンク倒壊で配管が破断し、LPGが漏えいして火災に至ったことから、配管設計において可とう性（伸縮の許容力）を確保し、さらに配管分岐部の距離を可能な限り離すことで、独立性を確保。また、緊急遮断弁の独立性の確保やタンク満水時の配管の縁切り対応を実施したほか、散水配管の改善、緊急操作システムの改善、可燃性ガス検知警報盤設置などの安全対策を実施しました。今回被災しなかった8基のLPGタンクについても、新

設タンクと同じ補強を行っています。このような対策を実施したうえで、再建したLPGタンク群の運用を2013年7月より開始しました。また、常圧蒸留装置についても2系列による原油処理を再開し、全面復旧しています。今後、12月の最需要期に向け3製油所体制によるフル稼働へ移行し、1月から3月の稼働率は95%を計画しています。これにより、当社グループの収益力は着実に回復する見通しです。

02

千葉製油所の安全操業・安定供給 に向けた取り組みの強化



当社グループは、千葉製油所の長期的な安全操業・安定供給を確実なものとするために、千葉製油所のリニューアルプランを策定し、第5次連結中期経営計画における投資総額の10%に当たる280億円を投じる計画です。具体的には、従来、設備の部分的な取り換え工事を中心とした補修を実施してきましたが、これを改め、より広範囲に設備を刷新する補修に重点を置くことで、設備の安全性を大きく向上させます。この投資は、短期的には投資額が増加しますが、長期的な視点で見ると、補修費用を最小限に抑えることに繋がります。また、外部コンサルタントを活用した業務プロセスの再構築とPDCAサイクル*による

プロセスの見直しにより、現場力の向上及び法令遵守の徹底に取り組んでいきます。

*PDCAサイクル(Plan-Do-Check-Action cycle: 計画、実行、評価、改善)

●ハード面●
製油所設備へ経営資源を投入

千葉製油所 リニューアルプランの実施

●ソフト面●
現場力の向上と法令遵守

外部コンサルタントを
活用した
業務プロセスの再構築

安全・保全
PDCAサイクルの
「徹底」

03

3製油所体制がスタート 競争力強化に取り組んでいきます



現在、石油製品の需要は国内においては省エネの推進や低燃費自動車の増加により減少傾向となる一方で、海外においてはアジアを中心に拡大基調が続いています。これに呼応する形で中東やアジア地域では新たな製油所が建設され、石油製品の供給能力は今後増加する見込みです。このような環境のなか、当社は製油所の効率的な運営による競争力強化が必須であるという認識のもと、2013年7月に坂出製油所を閉鎖し、西日本地域への安定供給を果たすオイルターミナルへの移行を進めています。これは当社グループが進めている第5次連結中期経営計画の合理化施策のひとつであり、同製油所の固定費削減や各製油所の稼働率向上による競争力強化を図るものです。

3製油所体制に移行したことによる具体的な効果としては、固定費の削減や原油在庫の低減によるコスト削減を見込んでいます。3製油所の常圧蒸留装置の稼働率はSDベース*1で76%から90%を超える高稼働運用を計画しており、二次装置の装備率*2についても29%から32%に向上していきます。これらの結果、効率的な運営による製油所全体での収益改善が見込まれます。

3製油所体制に移行したことによる具体的な効果としては、固定費の削減や原油在庫の低減によるコスト削減を見込んでいます。3製油所の常圧蒸留装置の稼働率はSDベース*1で76%から90%を超える高稼働運用を計画しており、二次装置の装備率*2についても29%から32%に向上していきます。これらの結果、効率的な運営による製油所全体での収益改善が見込まれます。

●コスモ石油3製油所の位置



*1. SDベース：製油所の定期整備等の影響を除いた稼働率
*2. 二次装置の装備率：(流動接触分解装置+コーカー+水素分解装置)÷トッパー能力

04

収益力向上に向け、 各製油所の原油処理能力を最適化



3製油所体制への移行及び千葉製油所が常圧蒸留装置2系列体制で稼働を再開したことを踏まえ、主力である千葉製油所及び四日市製油所の原油処理能力を見直しました。この体制のもと、

当社は収益力の向上を図るとともに、今後とも安全操業・安定供給に努めていきます。各製油所における最新の原油処理能力は下記の表の通りです。

各製油所の原油処理能力

単位：バレル/日

	処理能力【変更前】	処理能力【変更後】	増減量
千葉製油所	220,000	240,000	20,000
四日市製油所	175,000	155,000	-20,000
堺製油所	100,000	100,000	0
坂出製油所	140,000	0	-140,000
合計	635,000	495,000	-140,000

05

当社千葉製油所と 極東石油工業千葉製油所の 共同事業による効率化を検討します



当社と三井石油株式会社及び東燃ゼネラル石油株式会社の3社は、隣接する当社千葉製油所と極東石油工業合同会社*1の千葉製油所が、各々の強みを活かした共同事業を行うことで効率性が向上し、国際競争力を持つ国内トップクラスの製油所へと成長する可能性があるという認識で一致し、9月30日に共同事業の具体的な検討を開始する覚書を締結しました。今後の取り組みとしては、右記の表の通り3項目となっています。

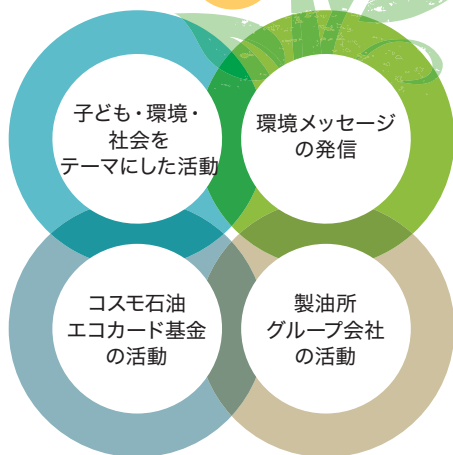
*1. 三井石油と東燃ゼネラル石油の子会社であるEMGマーケティング合同会社との間の50:50の合弁会社

検討項目	内容
1	当社千葉製油所、極東石油工業千葉製油所間を結ぶパイプラインの建設を含めた両製油所の操業全般の連携による効率化の機会を追求
2	両製油所の原油の選択及び生産計画の最適化
3	上記(1)(2)を達成するための共同事業体設立の可能性の探求

コスモ石油は、グループ社員やお客様とともに社会貢献活動に取り組んでいます。

平和で健全な社会と、地球環境の保全是、企業が持続的に発展していくための前提条件です。コスモ石油は、地球と人間と社会の調和と共生を図り、無限に広がる未来に向けての持続的発展をめざすことを経営理念に定め、「子ども・環境・社会をテーマにした活動」「環境メッセージの発信」「コスモ石油エコカード基金の活動」「製油所 グループ会社の活動」の4分野で社会貢献活動を展開しています。今回は、当社が長年取り組んでいる「コスモわくわく探検隊」「コスモ アースコンシャス アクト」「コスモ石油エコカード基金の活動」についてご紹介します。

社会貢献活動の主なテーマ



子ども・環境・社会をテーマにした活動

社会貢献活動の基本方針

コスモ石油としてオリジナリティのある活動を行う
 社員が参加して活動する
 経営状況に左右されず長期継続する

社会貢献活動のコンセプト

未来の社会をつくる子どもたちの啓発
 人間社会が存続するための基盤である地球環境の保全
 平和で心豊かな文化的社会の構築



COSMO WAKU WAKU TANKEN TAI

子ども向け環境教育プログラム

第21回 コスモわくわく探検隊

コスモ石油は、車社会と深い繋がりを持っています。「コスモわくわく探検隊」は、交通遺児の小学生を対象に、1993年から継続的に開催している自然体験プログラムです。プログラムの企画・運営には、全国から集まったコスモ石油グループ社員が携わり、子どもたちにたくさんの仲間やスタッフとの交流を楽しんでもらうとともに、自然環境の大切さを考える機会を提供しました。21回目となる今年は、小学生38名、コスモ石油グループ社員19名、社外スタッフ15名が参加し、山梨県都留市の「宝の山ふれあいの里」において、8月8～10日の日程で開催しました。



捕まえた沢ガニなどの食材を物々交換しました

班ごとにヤマメ捕りに挑戦しました



環境メッセージの発信

COSMO Earth Conscious Act Clean Campaign in Mt.FUJI

コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン in Mt.FUJI

コスモ石油は、TOKYO FM及びJFN（全国FM放送協議会）加盟局とともに、地球環境の保護と保全を呼びかける活動「コスモ アースコンシャス アクト」を展開しています。活動の一環として、全国の山、川、海、湖、公園を清掃する「クリーン・キャンペーン」を実施しており、2013年7月20～21日には、世界文化遺産に登録された富士山を舞台に「コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン in Mt.FUJI」を開催しました。当日は、アルピニストの野口健さんをはじめ、10歳～58歳の幅広いリスナーの方々、各局のパーソナリティなど187名が参加し、清掃活動やエコトレッキングを楽しみました。

ゴミ袋455袋分、20,475リットルのゴミを回収しました



アルピニストの野口健さんも参加されました



富士山の原生林をエコトレッキングしました





コスモ石油エコカード基金の活動

コスモ石油は「国内外の環境修復と保全」及び「次世代の育成」をテーマとして、2002年に「コスモ石油エコカード基金」を設立し、「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトを国内外14カ所で推進しています。当基金はコスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」、コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」の会員様からお預かりした寄付金と、コスモ石油グループの売上の一部をもとに運営されています。環境問題は、貧困、食糧難、教育など、様々な社会的課題が密接に関連しており、本質的な問題解決に取り組むことが重要となるため、各国政府や地域のNPOやNGO、研究機関などのパートナーとともに、プロジェクトを推進しています。



コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」

コスモ石油エコカード基金

コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」
コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」
会員の皆様からの寄付



コスモ石油グループ
からの寄付

地球環境保全をサポートする
「ずっと地球で暮らそう。」
プロジェクトを運営

「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクト

持続可能な社会の実現

国内外の環境修復と保全

次世代の育成

地球環境問題

地球温暖化問題

生物多様性の
保全

熱帯雨林保全

シルクロード緑化

南太平洋諸国支援

秦嶺山脈 森林・生態系回復

さとやま学校

野口健 環境学校

東日本大震災復興支援 森は海の恋人

ムササビとともに暮らす里山再生

南太平洋諸国生態系保全

ビオトープ浮島 水辺の生態系回復

どんぐりの森 里山再生

種まき塾

プロジェクト紹介

東日本大震災復興支援 【森は海の恋人】

震災により被災地の子どもたちの遊ぶ場所が少なくなり、自然離れが進んでいます。当プロジェクトが支援するNPO法人「森は海の恋人」は、2013年7月、8月に東松島市と気仙沼市で夏合宿を開催しました。約20人の子どもたちが、がれきの撤去された浜で海水浴や釣り、シーカヤックを楽しんだり、海の生き物観察をしました。



News Flash

当社が発表した最近のニュースについて、主な項目と内容の一部をお知らせします。詳細は当社のホームページからご覧いただけます。
ホームページアドレス <http://www.cosmo-oil.co.jp/>

2013

11月5日

「コスモビークルリース」累計契約台数"8,000台"突破のお知らせ

3

10月7日

コスモ石油エコカード基金「エコ」会員向け「ムササビとともに暮らす里山再生」植樹体験エコツアー実施のご報告

9月30日

当社千葉製油所と極東石油工業千葉製油所の共同事業検討に関する覚書締結について

9月20日

「コスモ石油グループ コーポレートレポート2013」発行について

1

9月9日

「Jazz Night@魚籃寺」チャリティ・ジャズコンサート実施（協賛）のご報告

2

8月30日

「ココロも満タンに」宣言2013」3つの約束診断結果報告及び診断結果解説動画の配信について

8月27日

「アブダビ首長国王立科学技術系高等学校 短期留学プログラム」の実施について ～安倍昭恵内閣総理大臣夫人がプログラム修了式に来校～

8月14日

次世代育成支援対策推進法に基づく認定マーク「くるみんマーク」の取得について

8月12日

「第21回コスモわくわく探検隊」実施のご報告

8月8日

～コスモ・ザ・カード会員向けサイト「コスモビークルライフ」～新コンテンツ『Eutopia』（ユートピア）及びモバイル版サービス開始のご案内

7月31日

当社供給体制再構築の実施について

7月22日

コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン in Mt.FUJI実施のご報告

7月3日

コスモ・ザ・カードの会員数が400万会員を突破しました

6月19日

「カーライフ価値提供業」実現に向けた動画コンテンツの提供開始について

5月23日

会津若松市における大規模風力発電所の安全祈願祭開催について

9月20日

1 当社グループのCSR経営について解説した コーポレートレポート2013を発行

本誌の第2特集「社会貢献活動のご紹介」(P12~14)で記載したように、当社は、地球と人間と社会の調和と共生を図り、無限に広がる未来に向けての持続的発展をめざすことを経営理念に定め、CSR経営を推進しています。コスモ石油グループのCSR経営に対するビジョンや計画、取り組みの進捗をご報告するとともに、経営情報も掲載した「コスモ石油グループコーポレートレポート2013」を9月

に発行しました。



内容としては、企業行動指針に沿った6章で構成する本編と第3次連結中期CSR計画に基づいた5つの重点項目の活動報告のほか、昨年実施した読者アンケートの結果から関心が高かったトピックスを特集記事として掲載しています。

http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_130920/index.html

主なコンテンツ

- トップコミットメント
- コスモ石油グループのCSR、事業
- 特集1 さらなる成長へ向けて[製油所の安全・安定操業]
- 特集2 次のコスモ石油へ[発電事業]
- 第1章 お客様の信頼と満足に応えます
- 第2章 安全で事故のない企業をめざします
- 第3章 人を大切にします
- 第4章 地球環境を大切にします
- 第5章 社会とのコミュニケーションを大切にします
- 第6章 誠実な企業であり続けます
- 活動報告 2012年度の取り組み状況 重点項目1~5

※内容は当社ホームページからも閲覧いただけます。
<http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/publish/sustain/>

コスモSS新店舗 オープン情報

2013年7月から10月にオープンしたコスモ石油のサービスステーションを紹介します。“ココロも満タンに”の想いを込めた新店舗ですので、お近くにお住まいの方はぜひご来店ください。

- | | |
|--|---|
| <p>■10月オープン</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ワンダフルセルフ高尾 石川県金沢市高尾町 <p>■8月オープン</p> <ul style="list-style-type: none"> ●セルフステーション八重瀬507 沖縄県島尻郡八重瀬町 | <p>■7月オープン</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ホワイトスピリッツセルフ長岡 新潟県長岡市 ●セルフ高見丘 静岡県磐田市 |
|--|---|



9月9日

2 チャリティ・ジャズコンサート 「Jazz Night @魚籃寺」に協賛

当社は、9月6日に開催されたチャリティ・ジャズコンサート「Jazz Night @魚籃寺」に協賛しました。このコンサートは、「NPO法人 Glovill(グローヴィル)」が主催するもので、小児がんなどで長期入院を必要とする難病を抱える子どもと、その家族に宿泊施設を提供する「NPO法人 ファミリーハウス」を支援するコンサートです。当日の運営は当社グループ社員ボランティアが会場の準備や片付け、受付、誘導などを担当し、入場料と来場者からの寄付金を合わせた全額をファミリーハウスに贈呈しました。

http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_130909/index.html



集まった寄付金をファミリーハウスに贈呈しました



トランペット奏者エリック・フロイマンズが率いるジャズ・カルテットによる演奏の様子

11月5日

3 「コスモビークルリース」累計契約 台数が8,000台を突破しました

2010年12月から開始した当社のオートリース事業「コスモビークルリース」の累計契約台数が、10月末に8,000台を突破しました。コスモビークルリースは、「快適なカーライフを送りたい」というお客様のニーズに応じて誕生したコスモ石油独自のビジネスモデルです。お客様は月々定額のリース料をお支払いいただくだけで、車両取得代金から、車検やタイヤ交換などのメンテナンス費用、税金・諸費用がまかなえます。また、万が一事故に遭遇した際のロードサービスや燃料油の割引など、カーライフに関する様々なサービスをご利用いただけます。当社は、コスモステーションの新しい収益の柱として今後も事業を伸ばしてまいります。

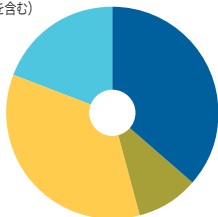
http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_131105_4/index.html





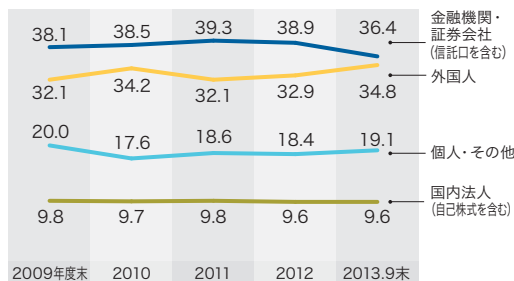
発行済株式の総数 847,705,087株

- 金融機関・証券会社 (信託口を含む)
308,730(36.4%)
- 国内法人 (自己株式を含む)
81,715(9.6%)
- 外国人
295,299(34.8%)
- 個人・その他
161,959(19.1%)



(単位:千株、千株未満切捨)

発行済株式数の所有者別推移 (単位:%)



社債の状況 (単位:億円)

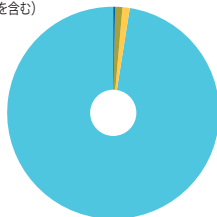
●無担保社債

	発行日	前期末残高	当第2四半期末残高	償還期限
第20回	2010.1/29	142	133	2017.1/31
第21回	2010.9/21	220	220	2015.9/18
第22回	2010.12/9	100	100	2014.12/9
第23回	2010.12/9	100	100	2016.12/9
第24回	2012.8/28	200	200	2020.8/28
第25回	2013.9/30	—	100	2021.9/30

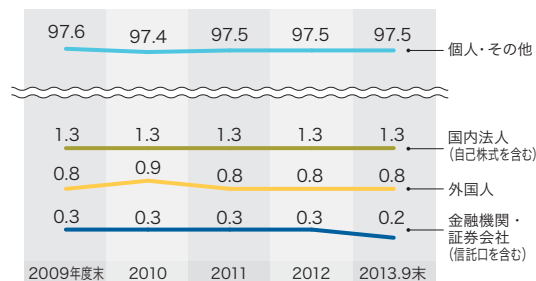
※億円未満を四捨五入

株主数 37,603名

- 金融機関・証券会社 (信託口を含む)
112名(0.2%)
- 国内法人 (自己株式を含む)
497名(1.3%)
- 外国人
330名(0.8%)
- 個人・その他
36,664名(97.5%)



株主数比率の推移 (単位:%)



大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
インフィニティ アライアンス リミテッド	176,000	20.76
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	51,421	6.06
株式会社みずほ銀行	31,531	3.71
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	22,426	2.64
株式会社三菱東京UFJ銀行	19,750	2.32
三井住友海上火災保険株式会社	18,878	2.22
関西電力株式会社	18,600	2.19
東京海上日動火災保険株式会社	17,335	2.04
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	15,803	1.86
株式会社損害保険ジャパン	15,792	1.86

※小数点第3位を切捨
注)持株比率は自己株式を控除して計算しています。



- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 期末配当金 3月31日
- 支払株主確定日 3月31日
- 1単元の株式の数 1,000株
- 株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
- 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社証券代行部
- 電話照会先 電話0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っています。
- 公告方法 電子公告の方法により行います。
ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載します。
公告掲載URL
<http://www.cosmo-oil.co.jp/ir/notice/index.html>
- 上場取引所 東証一部・名証一部
(注)11月5日に名古屋証券取引所に上場廃止申請書を提出し、12月15日に上場廃止となる予定です。

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払い配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

コスモ石油株主通信
『シーズ・メール』75号

発行/コスモ石油株式会社
経営企画ユニット
コーポレートコミュニケーション部 IR室
〒105-8528
東京都港区芝浦一丁目1番1号
TEL. (03)3798-3180
FAX. (03)3798-3841
ホームページ
<http://www.cosmo-oil.co.jp/>

IRモバイルサイト



※モバイルサイトへは、このバーコードからアクセスできます。

誌名『C's MAIL (シーズ・メール)』には、「C (コスモ)の手紙」の意味を込めました。株主の皆様へ、心の通った情報を提供したいという当社の願いを、この名前に託しています。

表紙イラスト 古田忠男